



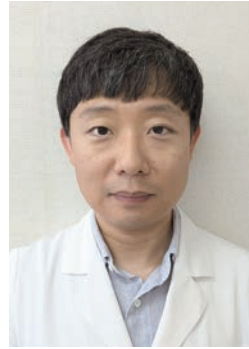
発行所 安芸郡芸西村 芸西病院 TEL 0887(33)3833  
発行責任者 山崎一明 http://okura-kai.com/geisei/



# 副院長就任の挨拶

副院長(精神科)

大畑 貴裕



はじめまして、こんにちは。

正確には、初めましての方と約4年振りのご挨拶となる方がおられると思います。2017年7月から2019年6月まで、当時は関西医科大学からの出向というかたちで勤務しておりました大畑です。全く予想していなかった事ではありましたが、本年4月より関西医科大学を退職し、再び芸西病院へ着任する事となりました。

つきましては、改めて私の略歴について簡単にご紹介します。私は大阪府大阪市出身です。小学校は大阪市立堀江小学校を卒業し、中高は私

立明星学園に進学卒業しました。数年の浪人生活の後、石川県内灘町にある金沢医科大学に入学、卒業し、大阪に戻りまして関西医科大学卒業後臨床研修センターで2年間初期研修医として勤務しました。

その後、2016年4月に関西医科大学精神神経科へ入局し、2017年7月から2019年6月まで当院へ出向、その後は再び関西医科大学へ戻り今年3月に退職しました。

前回、当院へ勤務させてもらっていた時に居られた患者さんや職員の方々と働くのは何とも不思議な感覚です。また、以前とは立場が異なり、大学からの出向医師の教育等、様々な場面で指導的立場となりやや落ち着かない日々を過ごしております。前回は経験しなかった老健施設運営

への関与も大変新鮮で、以前までは治療した患者さんに施設入所を調整することが多かった反面、その後の患者さんの様子を具に観察する機会が乏しく、施設でどの様な点が問題になるのかを現在肌で感じているところです。毎日、涼しい顔でこれらの職務をこなされていた岩村先生の偉大さを痛感致します。

前置きが長くなりましたが、恵まれた環境で新しい事へ挑戦させて頂ける幸運を自覚しながら、日々努力して参る所存です。物覚えの悪い小生、至らぬ点多々あり、ご迷惑をお掛けする事も屢々かと思いますが、その際は厳しくご指導賜れますと幸いです。

また、前回当院勤務時に、私の趣味である釣りの中で、新しく鮎の友釣りをご指導頂

き始める事になりました。しかし、その後は中々日程が取れず、またコロナ禍であった事もあり行けていない状態です。今回は時間にも余裕がありますので、可能な限り再挑戦し上達したいと考えています。友釣りだけでなく、海釣りも含め、より広いジャンルで高知県の釣りを開拓したいとも考えております。以上、簡単ではございますが新任の挨拶とさせて頂きます。今後とも、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



## 外来診察担当医

令和5年5月1日

	月		火		水		木		金		土	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	山崎(第1)	岩崎(第3)	山崎	八木	清藤(第1-3)	山崎	八木	八木	山崎	山崎	麻生	休診
	八木(第2・4・5)	八木(第2・4・5)	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木	交代制	休診
精神科	大畑	赤尾	大畑	大畑	藤戸良輔	大畑	廣瀬	廣瀬	内野	内野	交代制	休診

芸西病院

# 新任の挨拶

精神科 赤尾 敦



皆様はじめまして。赤尾敦と申します。高知大学医学部付属病院からの派遣で2023年4月から週に1度、月曜日の午後から火曜日の午前中まで勤務させていただいており、月曜日午後の外来を担当しております。至らない点もあるかと思いますがよろしくお願いたします。

ここからは私の自己紹介をさせていただきます。私は生まれと育ちは岐阜県で、高校までを岐阜で過ごしております。大学から高知県に移ってきて今年で9年目になります。暑い暑いと思っていた高知の夏も、スコールなのかと思うくらいの猛烈な雨にもかなり慣れてきたと思えます。

食べ物の中でも特に魚が本当に美味しく、初めてカツオのたたきを食べたときは衝撃的でした。岐阜にいたころはあまり魚が好きではなかったのですが、今では美味しく魚料理を食べられるようになりました。またお酒を好きな方が本場に多く、県をあげてのイベントも開催されており、かなり驚きました。大学では陸上部に所属し、遊びよりは部活優先の日々を過ごしてまいりました。その影響か、いまでも体を動かすことは趣味の一つです。高知大学を卒業した後は、高知市の細木病院で初期臨床研修を行い、2023年度より高知大学医学部神経精神科に入局いたしました。もともと人の心の内面に興味があり、また脳神経内科や内分泌内科といった身体的な要因、ほかに環境的な要因などさまざまな要因が精神科を形成しているところにも魅力を感じました。



ことが多く、芸西村の方まで足を運ぶことはあまりありませんでした。そのため不安や緊張を感じながら勤務がスタートしました。しかし、医局の先生方をはじめ病棟のスタッフの皆様は本当に温かく接してください、そういった気持ちですぐに和らいでいきました。大学とはまた違った経過や疾患の患者さんも多く、日々勉強させていただいております。まだまだ未熟者で、多くの方にご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、芸西病院の力になれるよう、精一杯努めて参りたいと思います。今後ともよろしくお願申し上げます。

私は、第8回日本精神・心理領域理学療法研究会学術大会にて、自閉スペクトラム症児の感覚統合と栄養調査の結果を発表し、優秀賞を受賞することができました。この発表は修士論文の研究にて行ったものです。自閉スペクトラム症児は、感覚刺激に対して過敏や鈍感な反応を示すことが多く、その影響で食事や運動などの日常生活に支障をきたす場合があります。そこで、私たちは、自閉スペクトラム症児の感覚統合能力を評価する検査と、食事記録などで栄養状態を評価する方法を用いて、自閉スペクトラム症児の感覚統合と栄養に関する実態を明らかにしました。その結果、自閉スペクトラム症児は、感覚統合能力が低下していることが多く、また、栄養素の摂取量に偏りや不足が見られ



ることが分かりました。これらの知見は、自閉スペクトラム症児の健康増進や生活支援において、感覚統合能力の向上や栄養バランスの改善を目指した理学療法的介入が有効である可能性を示唆しています。私は、今後もこのテーマについてさらに深めていきたいと考えています。このような成果を得ることができたのは、共同研究者の皆様、協力してくださった自閉スペクトラム症児とそのご家族の皆様のおかげです。この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、この受賞は私にとつて大きな励みとなりました。今後も精神・心理領域理学療法法の発展に貢献できるように努力してまいります。どうぞよろしくお願いたします。



学術大会で優秀賞を受賞しました  
リハビリテーション部 理学療法士 小松 勝人

# 新人研修を行いました



昨年はコロナ禍のため新人研修を行うことができませんでした。いつになったら法人にいつもの日常が戻るのかと空を仰いだものでしたが、今年は無事に新人研修を行うことができました。

4/13 (木)~15 (土)、理事長、院長はじめ各部署の所属長による様々な新人研修は2日半に及び、近年の状況の中では難しかったグループワークなども復活させつつの幅広い研修となりました。沢山の気づきや学び、また交流があったのではないかと思います。

ここでは3名の感想をご紹介します。

の特性を細かく知れたことで、それぞれの強みや活用方法を自身で整理することができました。私はソーシャルワーカーとして、患者さんの方向性について本人や家族、多職種と話し合う機会があります。そのような時に、例えば法人内のグループホームがいせいが設定している入所基準や申し込み方法を情報提供ができれば、患者さんや家族にとって大切な選択肢の1つとなる為、今後に活かしていこうと思います。2つ目は各部署がそれぞれ持っている理念やこころざしについて知り感銘を受けました。その人らしさの尊重や、患者さんや家族の利益を優先する等の言葉が印象的で、この組織の一員である以上は自身の役割を意識し、日々業務に励む必要があると身が引き締まる思いとなりました。大変有意義な時間をありがとうございました。



医療相談室 社会福祉士 中屋 三菜美

## 新人職員研修を終えて

私は昨年5月に入職し、2日半の新人研修会に参加しました。今回の研修によって新たに得られた事が数多くあり、その中で2つについて述べていきます。1つ目は法人内の施設や事業所



今回、2日半の新人研修に参加させていただきました。研修の中で特に印象的だったのは、初日に設けられたグループワークです。看護学生間でしか意見交換の場がなかった学校とは違い、多職種を交えた意見交換の場は、私にとって新鮮なものでした。同じ患者さんでも職種によって見方が違っており、それぞれの職種の専門性を活かした介入が、よりよいケアへつながることを実感しました。また、今回の研修では精神科医療の歴史についても触れられていました。精神科医療において、非人道的にも思われる出来事が数多く存在し、現在も差別や偏見が完全にはなくなっていないことを念頭に置いておかなければならないと感じました。

3B病棟 看護師 窪田 朱李

## 新人研修を終えて

藤戸せつ前理事長の志や意思を受け継ぎ、患者さんにとって過ごしやすい病院で在り続けられるように、まずは患者さん一人ひとりを理解することから始め、日々の接遇マナーに気を付け、一職員として多職種と協働していきたいです。

# 新人研修を終えて

リハビリテーション部 理学療法士

勇 ありさ

入職して約1年が経ち、改めておくら会の歴史や組織について学べてよかったです。入職当初は病棟の仕組みや精神科入院患者さんへの関わり方も難しく、慣れるまでに時間が掛かりました。精神科医療や精神科病棟についての研修では、1人1人に寄り添った心のケア、プロセスを大切にされた関係性の構築、相手の力を認め、人間力を養う所という言葉が印象に残っています。今後、リハビリを通して、限られた時間の中でも良好な関係性が構築できるように心掛けたいと思いました。

また、特に印象に残っているのは、心理療法室の紹介です。近年、重要視されている「心の健康」という言葉の意味や、実際に本人や家族、支援者に対して公認心理士が行っているアセスメント、カウンセリングなど今まで身近には無かったのでとても興味深く、グループワークなど話す機会も多く良い経験になりました。



## 新PACSシステム運用開始

放射線室 室長 診療放射線技師 廣地 禄代

当院の医療用画像管理システム(PACS)の経年劣化に伴い、画像サーバーや各部署の閲覧用PCの交換を行って、6月から新しいPACSシステムにて運用しています。患者さんの医療画像データ(レントゲンやCTなど)を一元管理し、また他院から寄せられる医療画像をPACSに取り込むことでその患者さんの状態、経過をきちんと把握することが出来ます。今回、医事課システムと医事データ連携を行い、また南海トラフ地震などの災害対策として医療画像のクラウド管理(県外の画像サーバーに医療画像のコピーを転送しデータ管理する)を始めました。これなら有事の際に機器破損があっても患者さんの大事な医療画像データを失うことはありません。今後も医師の画像診断に追従できる、見やすく診断のしやすいシステムの安定稼働に力を注いでいきます。



# 100歳！おめでとうございませす！！

2B病棟 看護師長

堀田 典子

この度、当院入院中の野村延子さんが100歳のお誕生日を迎えられました。

延子さんは、大正12年安芸市穴内にて誕生、農業を営むたけしげ氏とご結婚。その後は3人のお子さんにも恵まれ、4つの時代を生き抜いて来られました。戦争も経験され、色々な体験を積み重ねられたと思いますが「辛かったことは？」と質問しても「特にないねえ」と淡々とお話下さいます。けれど「ご主人はどんな方でした？」との質問には「優しいけれど、厳しい人でもあった」と少し表情を緩ませお答えくださいました。

記念撮影では緊張の中ふっと見られた笑顔が素敵でした。後日、安芸市の広報に紹介された写真を見て、「たまあ」と目を丸くされていた延子さん、次の目標は101歳ですか？とお尋ねすると「元気でおりたいねえ」と答えてくださいました。どうぞこれからもお元気で過ごしてください。おめでとうございませす！！

お誕生日に際して、コロナ禍ではありましたが横山安芸市長がお祝いに駆けつけてくださいました。ご家族からも

おいしい差し入れがあり、他の患者さんやスタッフとお祝いをさせていただきますました。「ありがとう、皆に世話をかけよう」と控えめな延子さん、



入院患者さんと職員でお祝いの貼り絵を作成しました



横山安芸市長と記念撮影

# 「こんなご時世だから」

リリースエッセイ No.74

栄養科主任 管理栄養士 近藤 恵子

「歩く」をしていました。

それからコロナ禍は続き、全く興味のなかった山歩きに挑戦してみると平地では考えられないくらいの負荷が体中を襲ってきました。特に足と心拍数は、もともと痩せてと身体ごしに嘔いてくれます(笑)登山グッズは一人前ですが、山の楽しみ方はまだ初心者で、頂上での達成感や爽快さよりも、登るしんどさがあればある程、下山が楽チンで楽しいと思える私です。

写真は越知町の横倉山に登った時に撮った樹齢600年程の大きな杉の木です。600年もの間そこで時代を過ごしてきているのかと思うと、とても神秘的な感じがしました。こんなご時世でなかったら山登りなんてしていませんが、熊や蛇に気をつけてもう少し楽しみたいと思います。



介護福祉士 介護助手 調理師 調理員 精神保健福祉士 社会福祉士 ケアマネージャー 臨床検査技師 看護師

業務内容、勤務時間、待遇面等、詳しくはこちらまでご連絡ください

医療法人おくら会 芸西病院 安芸郡芸西村和食甲4268

電話 0887-33-3833

担当：事務局（田岡 有澤） 栄養科（近藤）



募集中!

# やわらぎ通信

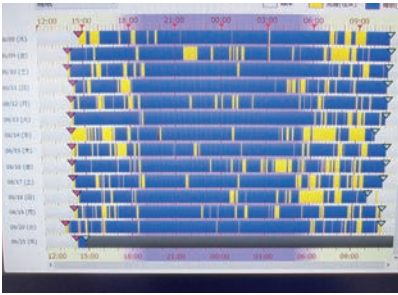
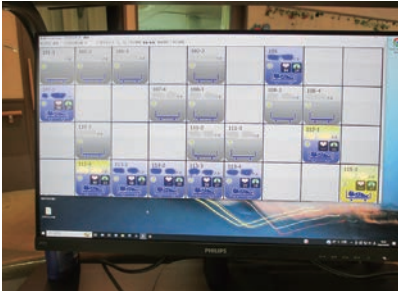
リゾートビルやわらぎ  
運営理念  
その人らしさを尊重し  
人と人とのつながりを大切に  
明日につながるケアをめざす

## 介護記録ソフトと見守り支援機器の導入

事務長 小谷 潤

近年、各分野において労働者不足が問題となつていますが、介護業界における介護職員の不足も深刻な問題となつています。高知県においても、ここ数年で55人以上の介護職員が不足すると推計されています。当施設としても人材確保に注力してきましたが、今後の情勢を鑑み、介護現場での生産性向上や業務の効率化にも取り組むこととなりました。

厚生労働省の制度を活用し、令和4年12月より①介護記録ソフトの導入とICT(情報通信技術)機器の活用②見守り支援機器の導入を行いました。①については、介護記録ソフトとタブレット端末を導入し、介護記録業務の効率化を図り、重複作業・転記作業・紙媒体の削減を行いました。又、どこからでも画面上でご利用者の記録入力・確認できるようになり、情報共有もスムーズに行えるようになりました。②については、「眠りスキャン」を40台導入しました。ベッドのマットレスの下に非接触、非侵襲のシート型センサーを設置して、ベッド上のご利用者の体動を感じ、睡眠・覚醒・起き上がり・離床などの状態や、呼吸・心拍数もパソコンやタブレット端末に表示されます。これまで夜間巡回を行い、ご利用者の状況を確認していましたが、画面で確認することができ、ご利用者の状況に応じ、覚醒や起き上がりを感知しアラームを鳴らす設定を行うことで、迅速な対応が可



能となり、夜間における職員の負担軽減やご利用者の安全確保につながっています。また「日誌機能」が備わっており、複数日に渡っての睡眠・呼吸・心拍のパターンや変化が観察でき、適切な個別ケアが可能となりました。導入当初は慣れないこともあり、多くの職員が苦勞していましたが、現在は全ての職員が操作・入力できるようになっています。職員からは「記録業務が楽になった」「ご利用者に関われる時間が増えた」などの声も聞かれるようになりました。

今後、今回導入した機器等を更に活用し、業務の効率化を図り、質の高いケアが提供できるよう取り組んでいきたいと考えます。

## はじめまして

やわらぎに新しい仲間が増えました。  
よろしくお願ひ致します。



中西由佳  
一階療養部  
介護助手



山本真弓  
一階療養部  
介護福祉士



濱田留実  
二階療養部  
介護助手



西森博美  
通所リハ  
介護福祉士



宗石陽色  
相談室  
社会福祉士



大野真奈  
二階療養部  
介護福祉士

## 令和5年高知県議会議員選挙区へ投票

小雨の降る4月6日、芸西村役場職員と当施設職員2名の立会いの下、施設相談室において不在者投票を実施しました。  
投票されたご利用者の皆様は、時間をかけて悩んだ末に清き一票を投じていました。



# やわらぎ豪雨・地震・火災総合防災訓練への参加協力に感謝します！

施設長 中本 雅彦



災害訓練ものがたり：「災害は突然やってくる。令和5年5月のある日、高知県東部には前日から降り続く大雨にて警報発令中、午後になり少し小雨となった。突然下から突き上げられるような大地震（最大震度7）に見舞われる。その後、大きな揺れがおさまったと思われる時、火災発生サイレンが施設内に鳴り響く。やわらぎ2階研修室家族介護者教室からの出火：地震での建物被害も加わり、職員による初期消火は失敗に終わり、利用者、職員の全避難対応しながら消防隊の到着を待つ」

今回は芸西病院精神デイケアメンバー、芸西村地域包括支援センター、民生委員、村内の居宅介護支援事業所介護支援専門員など、施設外の地域の方々にも多数ご参加いただきました。ご協力いただき誠にありがとうございます。今回は、訓練を実施するたびに新たな課題に気づかされます。今回も職員間のコミュニケーション・情報伝達共有方法や身を守る必要物品、設備構造面のさらなる強化など成果物がありました。避難訓練は「揺れ↓反射的に身を守る適切な行動」につながるよう、繰り返し行い身につけることが大切だと思います。今後も多様な状況を想定しての訓練、そしてその後の事業再開継続（BCP）、福祉避難所開設運営の訓練など、地域の皆様のご協力を賜りながら、共に災害に対する意識と対応力向上に努めて参りたいと思います。よろしくお願いたします。

- ・一般参加者の声（一部抜粋）
- ・ダンゴムシのポーズをずっとつておくことは思っていたより身体にしんどかった。
- ・膝や足全体が痛い人はとてもじゃないけどダンゴムシのポーズがとれない。
- ・新しい場所に行つてドキドキした。（訓練に参加している）人の多



## クラブ活動・行事

### 釣りクラブ



### 硬筆クラブ



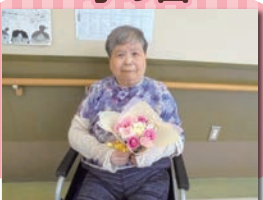
### 園芸クラブ



### 生花クラブ



### 母の日



### バスレク



さにドキドキした。隣で職員さんが背中をさすってくれて少し落ち着いた。これまで僕が何度か参加してきた自治体(地区)の訓練とやわらぎの訓練と違いがあった。違いというのは、やわらぎの人は頼もしいと言つか、動きがスピーディーで困難な事態に迅速に対処していた。この人達の言う通り動きよつたら大丈夫だなと思った。

・阪神淡路・東北の震災などの影響で小・中・高と防災訓練をしてきたけど、震度3とか4くらい地震をこれまで経験した時にちゃんと避難行動をしてこなかったから、これからは防災の意識を高めていきたい。

・防災頭巾を着けると視界がすごく狭くなり、特に左右が見えにくかった。

・地震発生後の放送の後、参加者の取るべき行動がアナウンスされながらも、利用者・職員皆さんが迅速かつ的確な避難行動、避難誘導ができていました。貴重な感想ありがとうございました。

## 「やわらぎ」の看取りケアについて

介護支援専門員 小松 裕子

「看取り」とは「近い将来、死が避けられないとされた人に対し、身体的苦痛や精神的苦痛を緩和・軽減するとともに、人生の最後まで尊厳ある生活を支援すること」とされています。人生の最期を迎える場所としては現在も病院が多数を占めますが、近年は医療・介護の制度が整備され、住み慣れた自宅で最期を迎える場合や、入所している介護施設での看取りが増えています。

介護老人保健施設であるやわらぎは、地域に根差した施設であり在宅支援として、自宅での生活が続けられるよう通所リハビリ・短期入所・入所・各種訪問サービスに加え、地域の介護事業者や医療機関等と協働して、地域の要介護高齢者の健康と生活を支援しています。その中で、入所中に終末期の状態に向かう方や、在宅支援の一環で入退所を繰り返しながら施設で終末期を迎える場合など、広く「看取りケア」を行っています。

「看取りケア」と言っても何か特別なことをするのかと思われるかもしれませんが、日常的なケア（食事介助や入浴、排泄などの）を中心に、終末期でも発熱など体調不良がなければベッドから車いすへ移り、テイルームで皆さんと一緒に過ごすことを続けています。体調不良時は医師の指示のもと苦痛を和らげるための医療を行います。具体的には、食べられない状況があれば体の状態に応じて点滴を行う、熱が高い・痛みがある場合は解熱鎮痛剤を使う、呼吸状態の悪化があれば苦痛が軽減できる程度の酸素を投与するなどを行っています。最後までご本人を大切に多職種チームで支援をする為に、スタッフ間でご本人の状態を情報共有し、ご本人、ご家族が希望する生活を続けられるように繰り返し話し合いを行います。また、専門職としてご家族への丁寧な説明を心がけ、気持ちに寄り添い不安が軽減できるように努めています。

いざ、終末期を迎えた時にご本人の意思が確認できておらず、ご家族の意向で方向性が決まる場合が多くあります。「人生会議（アドバンス・ケア・プランニング）」という言葉をご存じでしょうか。自分自身が大切にしていることや望み、どのような医療やケアを望んでいるかについて前もって考え、信頼する人たちと話し合うことです。テレビCMや病院などに冊子が置いてあり目にしたことがある方もいるかと思いますが、ご本人が望まれる、尊厳ある最期を迎えるために、意思表示ができる元気なうちからご家族で話をされることを提案いたします。

## 無我夢中

41

介護助手 目 美由紀

やわらぎデイケア介護助手の目です。  
私が夢中になっているものは釣りです！

両親が釣り好きで母は昔臨月のお腹を抱えて1人で朝から海へ行くほどの釣り好きだったそうで…。そんな両親の元で育ったためか今では兄弟みんな立派な釣り好きへと成長しました。

利用者さんから「今は手結でボラがあがりゆうー」「こないだの日曜は安芸でサバがサビキで入れ食いやった！」等聞くと海に行きたくなります。週に1度の休みの日は両親や家族とみんな安芸の漁港へ向かいます。



五目釣りがサビキがほとんどでフカセも挑戦してみるも釣れたことはまだありません。釣れるのは10〜20cmくらい的小ぶりなガシラやベラ、たまにウツボが釣れたりなんかします。テトラや岩場で釣ったら大物がくるかな？と思いつつも子どもたちと楽しむために今は漁港で我慢です。

娘はもうマイ釣竿があり、明日釣りに行くよ！と言うと目を輝かせながら「釣り釣りに行くー」と言っていて楽しみにします。海に着くと「私の釣竿は？」パパ早く餌つけて！と誰よりもやる気満々な様子。パパやじーじ、ばーばを押し返して1番釣る事もしばしばあります。

息子はまだまだ釣りよりもお菓子を食べている方が楽しいようで、もっぱらママのお膝が定位置です。私も子どもの頃のビデオや写真を見ると釣竿よりもお菓子袋を提げてる方が多かったのでもママ似かも？

暑いのも寒いのも苦手で面倒くさがりな私ですが、釣りだけはやめられません。これから暑くなってくるので、日焼けを気にしつつ楽しみたいと思います。

